

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.31（新春号）

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成20年 1月31日発行

第8回総会・環境講演会を開催します

期 日：3月8日（土） 午後1時30分より 場 所：高山市民文化会館

環 境 講 演 会：「干潟のいのちがつなぐもの」

講師 辻 淳夫 氏 NPO法人 藤前干潟を守る会理事長

三河湾流域ネットワーク代表世話人、日本湿地ネットワーク共同代表

220万都市名古屋市民の出すゴミで埋められようとした藤前干潟を救ったのは、物言わぬいのちを思いやり、自分も加害者であり未来へのつながりをも断ち切ろうとする社会への気づきでした。

私たちの世代が自然から受けてきた恵み、海の幸、山の幸は、次の世代に伝えることが出来ているのでしょうか？ いまや、山－川－里－海のすべてで、どこか違う、何かおかしくなっていることに気づかれてはいないのでしょうか？ 渡り鳥の世界を知って、そこから見えてきた地球のありよう、人間社会のありよう、そして未来への思い話していただきます。

合併記念公園計画・・・飛騨振興局（11/15）と高山市一之宮支所（12/3）で話し合い

飛騨振興局（11/15） 市の公園計画地の位山は県立の自然公園に指定されているので、県としての考えを聞きに行きました。

話し合いで判ったことは、県立公園というものの、県としては法に照らして認めるだけで、変更、指導など実効ある策はない。事業主である市が変更することが最良・最善の策である。

高山市一之宮支所（12/3） 支所長・職員、一之宮町審議会委員3名同席

高山市・・・地元の審議会の議決を経て決めた計画なので変更はできない。

審議会委員・・・位山への思い入れは人一倍ある。源流の山であり市民の水源でもある。

この計画が絶対とは思ってもいないが、登山者が多くなり汚れが目立ってきている。トイレは必要。

トイレの設置場所として「天の岩戸」付近の林内という案にも再考の余地がある。

位山の自然を守るために

— 位山山頂公園整備計画を考える —

伊藤 茂 （運営委員・岐阜県山岳連盟名誉会長）

位山は平安時代から名山として謳われ天孫降臨や天の岩戸伝説、巨石文化の遺跡で知られる歴史の山であり聖なる山として崇められてきた山である。

植生も豊かでシラビソ、ウラジロモミ、サワラをはじめシラカンバ、ミズナラ、コナラ、ブナなどの高木、ユズリハ、シャクナゲ、イヌツゲなどの低木など、特にイチイの原生林の山として知られる自然豊かな山である。

この位山に大きな異変が起ころうとしている、『乗鞍岳と飛騨の自然を考える会』として昨年9月以来検討を重ね、たびたび市に対して問題提起をしてきた。

〔1〕 モンデウス飛騨位山スノーパークエリアの整備計画と当会の対応

昨年来1市9町村の合併を記念して「合併記念公園整備計画」が高山市基盤整備部都市整備課の所管ですすめられている。

- (1) 原山市民公園エリア（高山）
- (2) グリーンパークひろ野・エアパークエリア（丹生川）
- (3) モンデウス飛騨位山スノーパークエリア（一之宮）
- (4) 美女高原エリア（朝日）
- (5) 宇津江四十八滝自然公園エリア（国府）

の5計画であるが、(1・2・4・5)の4計画については植栽などについて若干問題点もあるが概ね理解できる計画であるが、(3) モンデウス飛騨位山スノーパークエリアの整備構想には極めて納得できないものがあり、当会運営委員会で協議した結果、市当局に対し改善要望書を提出し（平成19・9・28）同時に市所管課職員と話し合いを行なった。後日、市から回答書が届き（平成19・11・7）この計画は多くの市

民の意見に沿った計画であり、計画どおり事業化する旨の回答があった。

これに対して当会としては到底納得できず、再び申し入れを行ない、高山市一之宮支所において支所長、課長以下の職員及び地元審議会代表と協議を行なった。（平成19・12・3）

〔2〕 モンデウス飛騨位山スノーパークエリアの整備計画の内容

計画は現状のスキー場を中心に林縁に登山道を整備し、周辺にヤマザクラ、コナラ、ヤマモミジなどを植栽し、リフト終点広場には屋外トイレ（バイオトイレ）、ベンチを設置する。同時に駐車場周辺の分水嶺公園の再整備を行ない湿原の再生、小動物とのふれあい広場、スポーツ広場の整備などを行なう、となっている。これについては植栽方法を除けば自然を大きく損なわない限り問題はないと考えられる。

問題は位山山頂周辺の整備計画である。計画では、ダナ林道を整備し、林道終点広場のトイレ整備、展望台の整備、頂上に至る登山道を整備する。頂上山域には広場を作り、展望台（避難小屋を兼ねる）とバイオトイレを設置する、という計画である。

特に問題視されるのは頂上山域の公園化整備である。

〔3〕 山頂整備計画の問題点

位山山頂一帯は県立自然公園の区域であり自然景観の保全には十分留意すべきところである。山頂付近の樹木を伐採して広場を広げ、展望台を構築したり、トイレを設置するという計画はいかかなものか。明らかに自然保護に逆行し環境破壊につながる計画であり決して許されないことである。

昔から、残された自然環境へ人間社会の便利さをできるだけ持ち込まない姿勢が大切であり、位山においても山頂周辺の現状を変更しない努力がなされるべきである。人間社会の文化を安易に持ち込もうとすることはこれこそ自然破壊である。将来、行政の責任を問われることのないよう思い切った計画変更をお願いしたい。

〔4〕展望台の設置について

位山山頂からは北アルプスの山々はほとんど望見できない。展望台を設置することはまったく無為である。また、ダナ林道終点にも展望台は不要である。むしろスキー場エリアのリフト終点広場からは北アルプスの展望は素晴らしい。北から薬師岳、北ノ俣嶽、黒部五郎岳、双六岳、槍・穂高連峰、乗鞍岳さらに御岳までが一望できる。展望台を設置するならばリフト終点広場が適当である。

〔5〕山頂のバイオトイレ設置について

山の登山口やキャンプ場には大抵トイレが設置されている。入山前に必ず排泄を済ますことが大切で、万一の場合に備え携帯トイレは必ず持参する。

富士山の山頂にはバイオトイレが2基設置されている。しかし利用者が多いためか、バイオ機能も働かないまま汚物が流されず臭気が鼻をつく不快極まる状態であった。

位山山頂に計画されているのは同じく小規模のソーラー式バイオトイレであるようだ。ソーラー式パネルの寿命は10年といわれるが、山頂に放置したかたちのトイレの維持管理には問題が多く、経費や管理面でも支障をきたす

のは必定である。富士山頂のトイレの二の舞になることは十分予想される。私も全国の山を登っているが、山小屋は別として、富士山を除けば山頂にトイレを設置している山に出会ったことはない。

緑豊かな位山を守るため山頂にトイレ設置は景観を損ない、環境破壊のきっかけになりかねない。市当局としては自然保護の将来を見据えながら再考をお願いしたい。

〔6〕自然を守るための登山者の心構え

山の自然が知らず知らずのうち破壊されていくのは、「公共」という美名のもとに行なわれる大規模林道やダム建設、あるいは自然林の乱伐、リゾート開発等によることが大きい。

しかし、われわれ登山愛好者にも責任なしと言い切れない面もある。特定の山、有名山岳への過剰な集中（オーバーユース）の結果惹き起こされるのは植物群落の踏み荒らし、裸地化、登山道の侵食などであり、ゴミ、排泄物による汚染、植生への悪影響など私たち登山者自身、真摯に考えなければならない課題は多い。そのため、私たちとしては

- (1) 大規模な集団登山はできるだけやめる。
- (2) 持ち込んだものはすべて持ち帰る。
- (3) 排泄は自宅または入山口のトイレで。
- (4) 動植物への配慮、植生の回復。

以上については最低心がけねばならないことだろう。

山登りは「不自由の中での自由」を楽しみながら自然に親しむ行為なのである。私たち登山愛好者としても環境保全のため配慮すべきことは多いとあらためて認識するしだいである。

(市からの回答内容は次ページに掲載)



モンデウス・スキー場



位山遠望(高山市北山公園より)左の白い部分がスキー場

要望書に関する回答について

平成19年9月28日付けでご要望のありましたことについて、下記のとおり回答します。

記

1 合併記念公園整備について

＜回答＞〔担当部署：基盤整備部 都市整備課〕

(1) スキー場内の登山道修景について

スキー場内の新設登山道は、現在使用されていないグレンデを利用し、気軽に安心して楽しみながら登れるような整備を予定しています。また、沿道の植栽は、冬期のスキー横断も考えられるため、グレンデ中央上部に高木を、中央から下部に低木・地被類をそれぞれ配植しています。

ご指摘の植栽樹種につきましては、ヤマザクラの他に、コナラ・ヤマモミジ・イタヤカエデ・エゴノキなどの高木や、サラサドウダン・タニウツギ・シバザクラなどを予定し、季節が感じられる周辺植生種を考慮した、将来、点在する林の再生をイメージしています。なお、イチイの植栽は高木の中で配慮いたします。また、地被類のシバザクラは現在センターハウス周辺で植栽されており、登山道人口沿道においても、地域の要望も有り採用していますのでご理解をお願いします。

(2) 位山山頂付近での広場造成と展望台設置について

山頂一帯は県立自然公園の特別地域に指定されており、今回の整備につきましても、県との協議を行っています。展望台を含めた広場整備は、従来から届け出されていた「位山山頂園地事業：付帯施設・展望施設」として、県の公園整備計画に位置付けられていたものの再整備で許可を得ています。協議では、広場の伐採は必要最小限に行い、展望施設は自然景観に馴染む色と形式でとの指示があり、指示事項に沿った整備を予定しています。また、展望施設には市民提案で要望が多かったトイレや避難小屋としての機能も組み込み、特に、トイレの設置につきましては、近年の登山利用者の増加に伴う山頂付近での衛生環境を守るため、自然にやさしいバイオトイレを採用しています。

必要以上に手を加えることのない整備、また、信仰の山での整備として、地域の方の理解も得ておりますし、多くの市民の方の意見に沿った計画としていますのでご理解をお願いします。

2 美女高原エリアについて

＜回答＞〔担当部署：基盤整備部 都市整備課〕

(1) 美女ヶ池への水生植物の移植について

水生植物の移植は、従来から自生していたジュンサイなどを予定しています。なお、プロボアザルで設計業者から提案のあった、松之木町ひょうたん池の絶滅危惧種ヒメコウホネ・ヒツジグサの移植は慎重に対処したいと思います。

(2) 花壇の品種について

美女高原エリアのコンセプトは「花」であり、数ヶ所の花壇整備を予定しています。現在花壇に植える品種は決めておりませんが、ご指摘のとおり、この地本来の自生種（山野草）で考慮したいと思います。

御嶽山麓 秋の自然観察会とドングリ拾い

平成10月14日 高山市高根町日和田高原

御嶽山麓のカラマツ植林地間伐跡地を本来の植生である広葉樹林帯に戻していき、かつ、野生動物の食料となるドングリやクリなどの実のなる植物を増やしていこうとの想いの実現の為、“はじめの一歩”としてドングリ拾いをしてきました。拾ってきたドングリは各自が家に持ち帰り育て、ある程度大きくなったら伐採跡地に植える予定です。

ドングリ拾いと同時に、秋に咲く花やキノコの名前調べなどもしました。またニホンカモシカの足跡やイノシシが餌を探した痕跡など動物の行動サインも見てきました。ヤマネにも会ってきました。とても可愛かったです。



“はじめの一歩” ドングリを拾おう。



森で見つけたヤマネ
起こしてごめんね。



全部育つといいね



森の中はメルヘンの世界（ベニテングタケ）

参加者 小野木三郎、直井清正・陽子、古橋克・洋子、大野敏雄、坂下行雄・愛子、
齊藤義幸、市林義将、佐藤八重子、宝田延彦・由美子

2007 乗鞍岳の主な出来事

- 1月16日 中部森林管理局が乗鞍岳山頂部を『特定地理等保護林』に設定。
- 4月 4日 乗鞍エコライン除雪作業開始。
- 4月 6日 岐阜県乗鞍自動車利用適正化協議会開催。(高山市)
- 4月 9日 乗鞍スカイライン除雪作業開始。
- 5月 3日 乗鞍エコライン、春スキーバス運行開始。位ヶ原山荘まで。
- 5月15日 乗鞍スカイライン開通。
- 5月15日 乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会開催。(松本市)
- 5月20日 「乗鞍山麓五色ヶ原の森」開所。「のりくら郷土の森」記念モニュメント除幕
- 6月 3日 「第4回乗鞍サイクルヒルクライム」開催。参加者、約460人。
- 6月24日 「第2回信州・乗鞍天空マラソン」開催。参加者、約750人(乗鞍エコライン)
- 7月 1日 乗鞍エコライン開通。
- 7月10日 乗鞍岳畳平周辺で外来植物除去。(乗鞍美化の会)
- 7月19日 乗鞍スカイラインの礎をつくった上嶋清一氏の顕彰祭と登山者の安全祈願祭。
(乗鞍スカイライン夫婦松駐車場)
- 8月26日 「第22回全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」開催。参加者、約3,500人
(乗鞍エコライン)
- 9月 3日 乗鞍エコライン沿線の「高山植物の生育状況」を聞く講演会が開かれた。
乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会主催。(乗鞍高原)
- 9月 7日 平湯峠周辺で外来植物除去。(乗鞍美化の会)
- 10月29日 乗鞍スカイライン冬期閉鎖。今季利用、196,048人。(畳平駐車場)
- 10月31日 乗鞍エコライン冬期閉鎖。
- 11月11日 「乗鞍山麓五色ヶ原の森」今季終了。

新入会員紹介 加藤恵子(高山市)

平成19年 12月末会員数 個人・家族 118 ・ 団体 4

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円	
あなたの知人、友人に	・ 郵便振替 00800-8-129365
入会をおすすめください	・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

くらがね通信 第31号 (新春号) 平成20年 1月31日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋
TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター
